

《各項目に関してのご意見》

1 耕作している農地の規模

- 10年無料で作ってもらっています
- 92歳介護を受けている身です。農業は昭和53年からやっていません
- 稲作のみですが、肥料及び雑肥にお金がかかり運営不可能になりつつあります。
- 貸地は任意団体新行地域づくり振興会へ
- 耕作していない畑もわずかにあります。
- 耕作地が少ないが結構忙しく利益もない
- 耕作地はあるが耕作していない。農地基本台帳は平方メートルで記載されているので面積記載は統一してほしい。
- 耕作放棄地(田・畑)がかなりありますが、計上しません。
- 今年は貸地0.5反歩約束している。
- 自家消費規模である
- 自己保全管理している農地は良いが、荒地になっている農地が多い(荒地面積が多く規模が把握できない)
- 水田1.2反歩は貸してあり、その人はアスパラを作っています。
- 水田は作る人が居りません
- 全部荒地
- その他は原野になってしまった。
- 年のため
- 畑については自家用野菜を作っている程度
- 畑は自家用野菜畑
- 非農家です
- 平成15年ことから野菜インゲンを1反歩くらい耕作したけれども野生動物に荒らされ現在は市の土地を借用している。
- 平成25年度より美麻ファームに2反歩貸付となします。

2 主に農業を行っている人の年齢

- 現在は後継者の子どもが手伝ってくれます(60代)
- 市の土地を借用して開墾して野菜を作っているが私は83才妻は79才平均年齢は81才と高齢である何年耕作できるか健康維持のため動いているけれども疑問点
- 主として農業以外で生計しているので、合間に農業をしている。
- 誰も居ません
- 妻と2人だけ
- 年のため
- 年をとっても農業が好きだからやっています。米が余っているから作らない。なぜ国単位で考えるのでしょうか。世界では食べ物は不足しています。生きているかぎり作らなくては。
- 病人。20年以上耕作放棄は駄目じゃないですか。美麻は特殊
- もうじき70歳になります。後継屋のことが心配です。
- 老年農業なので心配しながら1日1日を過ごしています。

3 農業後継者について

- 今、秋野菜を作っています
- 後継者がいないのでどうなるかわからない。自身高齢者になっているので
- 子供が後継者となり農業をするかどうかかわからない。(食べるだけの農業だと続けないと思う。買ったほうが安い。子供の意見)
- 子どもは仕事の関係で長野にいる。休みに手伝ってもらう
- 子供もいるが会社に勤めていて後継は望めないであろう
- 地形上耕作出来得る場所ではないし農業のみでは生計で着ない、
- 定年になったら食べるだけ耕作したいとのことです。後継者はいますが将来のことはわかりません。
- 同居ではないので明日の事はわかりません。
- 魅力のある農業にしていかなければ、自分のこどもにやれとは言えない。働くということ、生きていくと言うことを、教育で教えていかななくては。
- わからない

4 あなたの家の農業は今後どのようなようになっていくと思いますか

- 70歳くらいまでは大丈夫と思うが・・・
- 荒地になるでしょう。今は考える暇は無い。
- 現勤務先退職後は可能であれば拡大したい。
- 健康の間は作付をしたい。自家用に使用するため。
- 先のことはわからない
- 自分自身が高齢でいつまで続けられるかわからない
- 衰退の一途の様に考えられます
- すでに規模を縮小している。農機具も古く新しく買うにしても、家で1年食べる米しか作らない。
- 展望ナシ
- 農機具を購入してまでは続けないと思う
- 人の手が無い。土地が狭い。
- 私は10年後には農作業は無理になるとと思いますが、後継者が定年になるので引継たいと思います。
- 私も年寄で大したことはできませんから、明日の日もわかりませんのでいくら野菜と大豆、小豆をほんの少しだけ

5 あなた自身の農業経営は、集落・地域の中での位置付けですか

- 「中心となる経営体」の意味がよくわかりません。個人で経営しています。「集落・地域の中での位置づけ」とは？
- 兼業農家でいいと思います。現在、農業では利益も無く生活は成り立ちません。
- 後継者が居ないし高齢になっていくため
- 自己消費分のみの耕作で今後も続くと思う。
- 将来の収益性による
- 農家民宿のために、農業をしている
- 農業作業ができるうちはやりたいと考えております。集落営農の構築による地域全体で経営していかねば農業はなくなる。
- 老人農業のため心細いです

6 このまま推移すると、美麻地区の農業は今後どうなっていくか

- 荒地が多くなり鳥獣も多くなると思う。
- 耕作放棄したくないが今後、維持するのは大変だと思う
- 耕作放棄地が増えると荒地と化す。自分の農地の草刈も出来なくなる。
- 耕地条件が良いところは集積されるが、条件が劣るほ場は難しい。また、現存の法人も個人経営的で継続性にも不明確である。
- 採算がどうか、又利益があるかを優先に考えないと前進はないと思います。農業では無理かと思います。
- 中心になる経営できる組織作りが必要
- 鳥獣被害で農作物はつくらなくなるかな？
- 農業という経済活動でなく「農」を見直す農山村文化活動として位置づけていくべきではないか
- 農地を借りて耕作面積を増やすにしても、中途半端で経営として成り立たないのではないかという心配がある。(会社組織で企業として農業をすると想定した場合)
- 本気で考えなければと思っています

7 美麻地区の農業を持続可能にするために、今後どうしたらよいか

- 荒地のためどうにもならない。
- 生きがい対策としての農を生かすべきではないか。教育を含めて。
- 現状では考えられないです
- 持続できないと思います
- 集落営農で集積と人材育成をしていかないと山間地の農業は無くなってしまいます。
- 地形的条件もあるが基盤整備促進
- 特産品も美麻を思わせる農産物もないと思うので、営利目的では採算は取れないと思うので、出来る人は農業する程度でよいではないかと思う。
- 農協なども農業の経営を考えてみてはどうでしょう。美麻地区は農地が狭いため、現在作っているものでは、経営が成り立たないと思う。地域にあったものを作ることを考える。たとえば薬草とか。
- 農業を持続するには農業者を中心として経営する者が居ればよいと思う。
- 不明
- 法人、集落営農など農地集積しても地主にとってなんの利益もない。
- 美麻は条件的に不利のため、ある程度公な法人、集落営農で経営責任者(役員)が世代交代し、市民農園住民等の関係を生かし付加価値のある農産物として持続していく。
- 若い人達が少なく不安です。

8 美麻地区の農業を持続可能にするための後継者以外の問題点は

- JAさんには申し訳ないが、JAに出荷しているのでは収益性から美麻の農業は持続しない。人間関係、減農薬、有機、良水等付加価値で個人(特定者)への販売を地域で考えていく。
- これからは個人でなく共同で何事もやっていく必要がある
- 小規模農家が多く採算に合わないため持続することは不可能だと思う。
- 大規模農家にする政府になったり、個別補助の政府になったり農政が安定しない。TPPに参加する可能性が高いので農業が背居る津市無くなる。
- なし
- 農業者自身が意識改革しなければならない問題に直視して、農業は儲からないとの考えを見直して前向きに進むことが必要であると思う。
- 本気で農業しようとする人が居ないように思われる。
- 若い人の働き場所がないため
- 若者が不在のため淋しい限りです

9 美麻地域の農業の現状や将来について

- ・不利な条件の農地を代々守り続けてきた意識も薄れていくのはやむをえない。
・せっかくの市民農園は都会の人のためだけのもので、本当のコミュニケーションは良いもの、おいしいものを提供する田舎のよさ。双方がヨロコブを、悲しいかな行政主導で進めるしかないかです。
- ①持続するには採算を考えない人に作ってもらう。②市で借り上げて市で保護費を出している人で、健康な人に仕事をしていただき、上乘せして賃金を支払い何もしない人に金を上げない。③借り上げた農地を県または市で管理し、指導者を置き雇用を生み出す。
- ①美麻地区は高齢化が多く、特に農業の後継者が最も少ないため農地の耕作放棄が毎年増えていくと思われる。
②農業に対し最低保障制度を実施する事を望む
- 新たな経営体に委ねる(期待する)しかない。
- 今は何も考えていません。今更どうにもならないと思います。
- 今見る限りでは荒廃田畑がどうしたら良いか頭が痛いです。農作物で作付けして計算して黒字になる品が少ないこと何か良い品があれば願っています
- 大型機械が入らない水田が多い。1度作付をしないと木立になり不可能となる。取付道路の整備も必要となる。
- 各経営体間の農地集積の調整について追々検討会等立ち上げる時期が迫っている感がある。各欄の意見はすべて集約されるのではないか。(本音と建前)現在判明している予測は、当地区の農業振興は特に(高齢化率)により残念ながらこの点にこだわり続けなければ集落は劣化する。
- キレイ事で将来展望できるような状態ではない。一部を除いて急山間地の当地での農業は困難である。
- 経営規模にもよるが、農業は赤字であるが、自分で作る楽しみもある特産品があれば元気が出る。高齢化、後継者が居ない等、10年後は大きく様変わりすると思う。
- 経営面積が少ない上に、傾斜地農地が多く効率の悪い農業経営となっている。美麻地区で農業で自活できる経営体を作っていくことが大切である。

- 現在ある機会は古くなり修理費がかさみ、新しい機械もかえない農家が増えているので、経営体に農地を集積する
- 現在の耕作地の程度が借り入れ地であり、借主には、他の耕作放棄地の借り入れを申し入れましたが、人手不足のため、難しい。将来的には農業収入もあまり期待できず、縮小せざるを得ない状況である。
- 現在白馬村で耕作していますが、子供が後継してくれるかわからない。
- 後継者、若い人の勤務先が自宅より通勤可能でないと「一緒に農業を」と思ってもなかなか難しい。農業だけでは生活が出来ない今の時代兼業農家を目指してもなかなか難しいと思う。高齢化が進む山間地域で農業現状維持を保つのは大変厳しいと思います。また少人数の若い人に負担にならない方法も考えなければいけないと思う居ます。
- 耕作できない農地を「移住者に貸す」などし、農地を荒廃させない方策が必要。農業だけでは生活できないので、現金収入のある職場を開拓することも並行して考えていく必要があるのではないかな。
- 後者がなく工作放棄者が出てきている。法人経営体があるため、5年くらいは今のまま維持できると思うが、10年後は難しくなると思う
- 荒廃農地が増え耕作者も少なくなる。経営が出来なくなってきた。機械化も進まない。農業技術もなくなり支援体制も思うようにないので行政とか農協などの支援が必要と思う。集落営農などの団体を早急に作らねばならないと考えます。
- 高齢化しているので今のまま続けるのも大変だと思う。
- このままでいくと、荒地が多くなると思う。農業する者が居なければ、現在の荒地まで耕作してほしい。
- 米以外の陸わさび、そば焼酎などの特産品の開発
- 将来どうなるかわからない
- 中心になって農業をやっていく人材育成が必要だと思います
- 鳥獣被害などで農作が出来なくなる
- 鳥獣被害により、作付け意欲をなくしています。何か良い対策案があれば、又作付けしていきたいです
- 長男が美麻に居れば良いが職業が国の銀行のため出来ません(日本政策金融公庫)
- 農業が続いていくためには、農政の安定、TPP不参加の2点はとても大切と思います。
- 農業で経営が成り立てるならば夢があると感じる。法人、あるいは集落営農的な経営が一番良いと考えますが、今の若者が、勇気を持って立ち上げられるかです。
- 農業では生活出来ないから、働きに出て、自分の農地を守るために動いた金を使うのでは本末転倒。農作物の作り方を知らない若い世代が将来の農業を考えるととは思えない。金を動かすだけでは将来はない。
- 農業とは離れているかもしれないが、南信・東信地方で水資源(権利)の問題も出ているが、外国人への土地売却をしないことへの徹底。
- 農業は続けたいと思うが会社勤め農地は無理がある
- 農業物産の価格が悪い。手間を掛けても金にならない。人でもない。
- 農を楽しめるものとして位置づける必要がある。
農は大変なものではなく、楽しいものだと位置づけて行うことを後押ししてほしい。
都会の人たちと農をしているが彼らは「楽しい」と言っている。
- 捕縄整備が出来ている一部の田しか残れないがしかたがない
- ほ場整備済み分だけでも待つべき
- 美麻地域で取れた農産物を地元の直売所で販売
農産物→集荷→直売所 のルートの確立